

平成 24 年度第 1 回まちづくり審議会(8/27)以降の主な変更点等

	意見		主な変更点(対応)	資料ページ
地域区分	・集落は、集落間の協力や自立をイメージできるような表現に ・郊外ニュータウンは、計画的なニュータウン以外の郊外を含めた表現に	庁内会議 まち審	地域名称の変更 ・「集落とその周辺」 「多自然地域の集落群」 ・「郊外ニュータウン」 「郊外住宅地」	全て
	・4つの地域の相互関係を記述してほしい ・あらためて見ると、4つに分けたその相互関係が、いきなり4つに分けてしまった感がある	まち審 検討委	4つの地域の相互関係の記載 ・4つの地域定義の表に、多自然地域圏・都市圏それぞれの中心部・周辺部と枠組みを示しているほか、各地域の将来像部分にも記載を追加し、相互関係がわかるよう配慮 ・イメージしやすいよう普及版でイラスト等を用いて説明	P1、 4~7
改定の視点	・視点1「わかりやすさの向上」を記載公表するのは対外的におかしい ・視点2「まちづくりの対象範囲」を絞っては新たな問題に対応できない ・物語の記述など、イメージを共有できるような工夫をしたことについてアピールすべき ・「4つの地域を明確化」の「明確化」という表現には違和感がある	まち審 庁内会議	視点の共通の考え方の打ち出し 「地域のための基本方針」 視点を4つから3つに再構成 視点1:まちづくりの方向性をわかりやすく表現 視点2:ひょうごの個性を示す「4つの地域」を提示 視点3:問題意識と未来への希望を県民と共有	P1
	・まちづくりの担い手が使えるものに ・事例集の作成等も県の役割	検討委	視点1 まちづくり事例・施策集、まちづくり指標集の使い方を明示する	
	基本コンセプト	庁内会議	名称 「地域がつくり、未来へつなげるまちづくり」から 「地域がつくり、未来へつなぐまちづくり」とした	P2
	・持続可能なまちづくりを「未来」で表現するとわかりにくい	まち審	表現形式 「持続可能」の表現であることが伝わるよう工夫	
	・集落群のところの将来像はこだけ「…暮らし」なので、表現を工夫してはどうか	検討委	将来像(多自然地域の集落群) 「つながりが育む豊かなふるさと」とする	P2、4
	・都市中心部の重点プロジェクト名に「ひょうご」という文言では、都市の個性がないのでは	まち審	将来像 「競い輝く連担都市」とする 各個性が輝き競い合う都市群を目指すイメージを重視し、かつ連担して一体的にひょうごのイメージをも高める	P2、7
	・交通アクセス権についてももう少し強く打ち出しても良い	検討委	安全、安心のまちづくり(テーマ)の再構成 ・全体説明に「誰もが安心して暮らせる環境整備」を記入 ・「安心のまちづくり」の説明に「福祉のまちづくり・ユニバーサルデザインの推進」「防犯・交通事故対策」「医療、福祉、子育て、購買機能の確保」「移動利便性の確保」 ・各地域の取組方向:「公共交通の活用促進」等追加	P2~7
地域の縮退に対する考え方	・人口密度を維持させる地域、それとは別に暮らしを維持していく地域に分けるなど明記すべきでは ・縮退のまちづくりの考え方をどう見せていくか。最も課題が大きいと思われる集落で、ゆるやかな衰退、地域で幸せに暮らす観点を示しては ・NT が消滅していく、ゆっくりと自然に帰るような記載を検討しては	まち審	縮退の考え方の明示 ・4つのテーマ「魅力と活力」 「人口減少期に適合した都市機能の集約や…」 ・集落群の重点プロジェクト、将来像、取組方向 「村移りも視野に入れた…」 ・郊外住宅地の将来像 「粗住化が進んだ郊外住宅地の一部は、地域と行政の協働により緑地化され…」	P2 P3、4 P6
	・懸念されるシナリオの表現について脅迫感が強すぎる ・郊外住宅地は、「荒廃」まで至らないのではないか	まち審	懸念される事態の表現の修正 ・集落:「地域の崩壊」「集落の荒廃」 ・地方都市:「生活拠点の喪失」「拠点機能の低下」 ・郊外住宅地:「荒廃する住宅地」「生活機能の劣化」	P2、 4~6
	各主体の役割	まち審	県の役割 「まちづくりのリード&サポート」とする	P3
	・役割分担をイメージしにくい	検討委 庁内会議	説明文 役割を具体的な記載とし、わかりやすく表現	
	・高層マンションによる人口集中、NT 敷地分割など、まちづくりの方針に反する動きの抑制について記述すべきでは	まち審	行政の個別施策で対応 規制、誘導は行政の役割として「まちづくり施策」や「まちづくりを先導する施策」に含まれ、各論的に個別記載	-

	意見		主な変更点(対応)	資料ページ
指標	・兵庫県に住みたいと思わせる夢のある方針にしてもらいたい ・指標は、各地域が進もうとする方向がわかるように	まち審 検討委	指標の位置づけ 県民が各地域の将来像や取組方向を理解しやすく、そこに住みたいと思ってもらえるよう、まちづくり指標を設定	P3～7
	・全県での代表指標を設けてもよい	検討委	指標集内の記載で対応 長期ビジョンにおいて全県での代表指標を検討しており、最終的な指標集の整理ではその検討結果を反映する	-
	・県民に誤解されないよう、統計的に限界があり、全てを網羅できるものではないことを説明すべき	検討委	指標集内の記載で対応 指標集の中にその位置づけや考え方を整理する	-
	・低炭素化に関する指標として、省エネルギー基準適合住宅数、太陽光発電や太陽熱温水器の設置数も考えられる	検討委	長期ビジョンでの低炭素に関する全県指標に関する検討結果を踏まえ、最終的に指標集を整理	-
集落	・後継者の確保とともに、やる気のあるものの積極的な新規参入も認める姿勢が必要	検討委	懸念される事態の説明文 「後継者や新たな担い手の不足により」を追加 将来像(自立と連携) 「彼ら(都市住民)の新たな取組は地域で歓迎されている」を追加	P4
地方都市	・地方都市では、仕事確保のため、地域の基幹産業などをシェアする発想を入れたい	庁内会議	将来像(魅力と活力) 「地域に根ざした事業者が地域の雇用を生み出している」を追加 取組方向(魅力と活力) 「地域に活力をもたらすしごとの創出」を位置付 「ワークシェアリングなど新たな雇用形態の導入推進」を追加	P5
郊外住宅地	・郊外住宅地は高齢者に頑張っていただくイメージを出すべき	庁内会議	将来像と取組方向(自立と連携) 「高齢者が活躍し、地域をマネジメントしている」、「高齢者の経験や能力を活かした担い手育成」の記述に変更	P6
	・低炭素まちづくり法に関する取組方向を具体的に書くべき	検討委	取組方向(環境と共生) 「低炭素まちづくり計画の推進」を記載	
	・太陽光発電の大量導入を行おうとすれば、太陽光発電の設置に適した土地利用や空間配置にも留意する必要がある	検討委	将来像(環境と共生) 「新規開発団地は創エネに配慮した空間構成となっている」を記載	
都市中心部	・「歴史、文化、産業」をワンセットをそろえないといけないように感じる	庁内会議	取組方向(魅力と活力) 「歴史、文化、産業が輝く中心都市へ」「個性が輝く集約型都市へ」とした	P7
	・都市中心部は商店街の再生が重要	庁内会議	取組方向(魅力と活力) 「既存商店街の再生」を記載	
	・低炭素まちづくり法に関する取組方向を具体的に書くべき	検討委	取組方向(環境と共生) 「低炭素まちづくり計画の推進」を記載	
その他	・ITの活用にふれていない	まち審	取組方向(集落群:魅力と活力) ITの活用は各地域の取組に内在していると考えているが、指摘を踏まえ記述を追加する (「情報通信を…最大限活用し」)	P4
	・空き空間という言葉はわかりにくい	まち審	テーマ(魅力と活力) テーマの説明に、「使われなくなった地域資産の活用」を記載する	P2

まちづくり審議会（8/27） 論点整理

	意見	対応
地域区分	・地域の4類型の相互関係を記述してほしい	・4つの地域定義の表に、多自然地域圏・都市圏それぞれの中心部・周辺部と枠組みを示したほか、将来像部分にも記入を追加し、それぞれの関係がわかるように配慮した
	・「郊外ニュータウン」には一般的な郊外が含まれるのかわかりにくい	・定義では計画的NTと都市の郊外地域の両方が含まれており、わかりにくいいため、「郊外住宅地」とし、都市郊外に向けた記述（土地利用の集約化、緑地化等）を追加した
改定の視点	・視点1「わかりやすさの向上」を記載公表するのは対外的におかしい	・指摘の通りなので3つの視点を再構成した
	・視点2の「まちづくりの対象範囲」を絞ってはいは（ハードソフトでの区分では）新たな問題に対応できないのでは	・3つの視点の共通の考え方として「地域のための基本方針」とし、「まちづくりの方向性をわかりやすく表現」「ひょうごの個性を示す「4つの地域」を提示」「問題意識と未来への希望を県民と共有」とした
基本コンセプト	・基本コンセプトで、持続可能なまちづくりを「未来」で表現するとわかりにくいので、他のキーワードがよいのでは	・「未来」のほか、次世代・次代なども検討したが、現状の記述が最も妥当と考えている。「持続可能」の表現であることが伝わるよう、表現形式を工夫した
地域の縮退に対する考え方	・都市への人口集中をめざすのか、分散するのか	・全体としては各地域がそれぞれ連携し輝けるよう取り組み、各地域の中で選択と集中を考えてゆく
	・NTが消滅していく、ゆっくりと自然に帰るような記載を検討しては	・シュリンクしていくことは認識しており、明確に示すため、懸念と将来像の中で記載する（「粗住化が進んだNT周辺部の一部はゆっくりと自然に帰り」等）
	・地域間の連携は理想的だが、現実には難しい。人口密度を維持させる地域、それとは別に暮らしを維持していく地域に分けるなど明記すべきでは	・縮退のまちづくりは、「活力あるまちづくり」の部分で示しているが、指摘をふまえて記述を「人口減少期に適合した、都市機能の集約や～」と具体化する
	・縮退のまちづくりの考え方をどう見せていくか。最も課題が大きいと思われる集落で、ゆるやかな衰退、地域で幸せに暮らす観点を示したい。アドバイザー派遣だけでいいのか、村移りへの緩やかなプログラム等の検討に入る必要があるのではないか	・集落での施策では、「必要な支援制度検討」や、「むらの将来検討」などの事業で対応しているが、集落の重点プロジェクトの「自立と連携」部分に「村移りを視野に入れた」の記述を加える
	・「懸念されるシナリオ」について、県民に問題意識を伝えるのはいいが、「喪失」など脅迫感が強すぎるのではないか	・心配していることが伝わるように「懸念される事態」と表現を変更したほか、「めざすべき将来像」とあわせて読んでもらうことで問題意識と未来への希望を共有できるように配慮した ・「喪失」等過激な表現を変更した。（集落「集落の荒廃」、地方都市「拠点機能の低下」等）
重点プロジェクト	・兵庫県に住みたいと思わせる夢のある方針にしてみたい	・将来像とその実現方策である重点プロジェクトをつなぐ目標としてのまちづくり指標をわかりやすく設定し、兵庫県に住みたいと思ってもらえるように配慮した
	・都市中心部の重点プロジェクト名に「ひょうご」という文言では、都市の個性がないのでは	・それぞれの都市の個性が輝きブランドを構築し、かつ連担して一体的にひょうごのイメージをも高める、という趣旨のため、プロジェクト名は「ひょうご都市ブランド構築プロジェクト」とし、将来像を「競い輝く連担都市」とした
役割分担	・県として各地域の課題にも対応する姿勢がほしい ・市町がまちづくりしやすい観点での配慮を ・県の役割は、まちづくりのサポートのほかに戦略づくりなどがあるのでは ・市町に対してリーダーシップをとってほしい ・住民は主役だが、県や市のどこがイニシアティブをとるのが配慮してほしい	・県の役割の記載を「まちづくりのリード＆サポート」とする（住民が主役の前提で、市町が現場をリードし、県が基本的な方針や戦略を示しつつ、重要な部分は直接施策化し、最低ラインを広域的にカバーといったイメージを表現する
その他	・ITの活用にふれていない	・ITの活用は各地域の取組に内在していると考えているが、指摘を踏まえ記述を追加する（「情報通信を…最大限活用し」）
	・高層マンションによる人口集中、NT敷地分割など、まちづくりの方針に反する動きの抑制について記述すべきでは	・規制、誘導は行政の役割として「まちづくり施策」や「まちづくりを先導する施策」に含まれ、各論的に個別記載
	・空き空間という言葉はわかりにくい	・テーマの説明（魅力と活力）に、「使われなくなった地域資産の活用」を記載する
	・パブコメ向けに一般家庭がA4で印刷できるよう配慮が必要	・パブコメ用には、A4で全体構成・大まかな内容が理解できる読みやすい資料を作成することとした ・またA3の本編はA4プリンターでも印刷できるよう配慮する